

## 1. 学内からの視点

### (1) プログラムの履修・修得状況

本プログラムリテラシーレベルの対象科目はすべて必修科目である。プログラムの履修・修得者は、編入学生（外国人留学生、4年次編入学生）を除き、100%となる。

### (2) 学修成果

対象科目の履修者全員が、単位を修得し、各科目で学んだ内容を身に付けている。なお、学んだ内容は、上級学年の様々な活動（卒研等）で活用されているため、目標は達成されていると考えられる。

### (3) 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度

授業内容改善のため、学生を対象に授業評価アンケートを実施している。このアンケート項目の内容について、今年度から「授業の内容に満足している」という設問を追加したが、本プログラムの理解度を計るため、設問に改善の余地がある。

### (4) 学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度

本プログラムに設定されている科目はすべて必修科目である。また、高学年でデータサイエンス科目群の枠組みを設置しており、より理解を深めるようなカリキュラムとしている。

### (5) 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

本プログラムは4年次までの必修科目として設定しており、令和元年度以降の入学生は、編入学生を除き、100%の履修率となる。今後も教育改善に取り組みながらこれを継続する。

## 2. 学外からの視点

### (1) 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価

令和5年度卒業生が、本プログラム修了の1期生となる。就職先はデータサイエンスを取り扱う企業がほぼ100%、進学先も工学系が中心で、学んだものを生かせる分野に進んでいる。令和6年度には企業に対するアンケートを実施予定である。

### (2) 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見

本校参加（学外有識者による外部評価）において、学科改組に伴い分野横断的に設計されたデータサイエンス科目群に対して期待する意見があった。産業界からもより充実した教育が求められている。

## 3. 数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること

対象科目の授業評価アンケートにおいて、「将来の自分に必要かどうかを考えることができた」という質問に対して、「強くそう思う」「そう思う」という回答の割合が引き続き高い水準を維持しており、数理・データサイエンス・AIの知識の必要性は、十分理解しているものと考えられる。

## 4. 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること

対象科目の授業アンケートについては、授業の難易度や説明の仕方に対する評価が高い水準を維持していることから、「分かりやすい」授業を実施できているものと考えられる。

出席者：西川教育改善委員会委員長、楡井総務主事、  
濱口教務主事、齊藤教務係長